

令和4年7月5日

# 農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1. 水稻生育状況（7月1日現在）

●生育状況調査(中苗ななつぼし・5/25前後移植ほ場)

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	遅速 日数	備考 ※ ( )は平年値
R4年	43.3	8.5	291	±0	幼形期 7/4(平年7/6)
平年値	39.9	8.4	417		
差	-3.4	+0.1	-126		

(1) 調査ほ場の生育は草丈、莖数、葉数とも平年並です。6月の低温で分けつが緩慢であり、また水深が深かった所等により莖数が平年より少なくなっています。

(2) 多くのほ場で幼穂形成期に達しており、まもなく冷害危険期を迎えます。

ア 冷害危険期間（幼穂形成期10日後から7～10日間）は水深を徐々に上げ、最大20cm程度（できるだけ）の深水管理を行う（**必ず止め水に!**）。

●幼形期の目安

ゆめぴりか	成苗：6/29	中苗：6/31
ななつぼし	成苗：7/2	中苗：7/4

(3) 病害虫の発生状況

ア 葉いもち：7月4日現在、初発は確認されていませんが、過去に発生したほ場を中心に、ほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。

★冷害危険期の目安

ゆめぴりか	成苗：7/9 ～7/16	中苗：7/11 ～7/19
ななつぼし	成苗：7/12 ～7/20	中苗：7/14 ～7/22

イ アカヒゲミドリカスミカメ（カメムシ）：本年は発生量は平年並と予想されています。令和元年には着色粒の発生が見られました。畦草刈り等計画的に進めてください。

## 2. 畑作

(1) ばれいしょ

○疫病防除

降雨が続いているので多発しやすい条件にあります。7～10日間隔で定期的に防除を実施しましょう。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

○軟腐病防除

高温多湿条件が続くと多発します。特に窒素過多や倒伏したほ場で発生しやすくなるので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。

(2) 秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定による収穫予測が可能になります。測定を希望する方はJA及び普及センターまでお問い合わせください。

(3) 豆 類

断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

<追肥の目安と時期、施肥量>

- ・小豆（生育量が確保できない場合） 本葉3葉期～開花始 窒素 5kg/10a
- ・大豆（根粒菌の着生が劣る場合） 開花始 窒素 5kg/10a

### 3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：2～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：3～4段目開花 ・灰色かび病、萎凋病、アザミワ類、アブラムシ類、尻腐れ果、がく枯等が発生している。	・摘葉は草勢に応じて行い、過度な摘葉は控えましょう。 ・ベツト中央や茎葉で混み合っている部分、下葉を中心に摘葉を行う。 ・尻腐れ果の発生予防に石灰資材の葉面散布を行う。 ・病害虫の発生に応じて、防除を行う。
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・アザミワ類の防除に努める。
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め。 ・生育は概ね順調である。	・斑点病の早期防除に努める。 ・ハウス内の湿度を高めないように換気に努める。 ・ハウス周辺の除草を行う。
かぼちゃ	・一番果着果期 ・アブラムシ類が発生している。	・8節以前に着果した果実は摘果する。 ・畝間に追肥する。

### 4. 飼料作物生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R4年	平年	遅速日数	収穫期(平年値)	
牧草(1番)	草丈	91.9cm	99.3cm	±0	7/2 (6/24)	断続的な降雨により、収穫が遅れている(-8日)
デントコーン	草丈 葉数	71.5cm 9.0葉	72.2cm 8.6葉	±0		生育は平年並である

#### ●牧草地の雑草防除

ギシギシ類は、開花後2週間程度で発芽能力のある種子を持つため、牧草刈取り後、ギシギシ類の葉が展開するのを目安にして除草剤散布を行いましょう。なお、薬剤選定や使用時期（夏・秋処理）については、草地のマメ科牧草の有無なども考慮して判断します。

#### ●防疫対策を行いましょう

夏期は気温と湿度の上昇によって病原菌が繁殖し、乳房炎を始め様々な疾病が発生しやすくなります。作業者の予防意識を高め、防疫対策を徹底しまししょう。

##### (1) 農場の衛生管理

ア 農場出入口には車両用に消石灰(目安：0.5～1kg)/㎡を散布し、消毒帯(2m以上、タイヤ周分)を作らしまししょう。畜舎等の出入口には、踏み込み消毒槽を設置しまししょう。

イ 農場に立ち入った人の記録を残しまししょう。

ウ 牛舎出入口にネットを設置し、野生鳥獣の侵入を防止しまししょう。

##### (2) 生乳生産の衛生管理

ア 換気を行い、敷料の交換頻度を高め、牛体(乳房・乳頭)を清潔に保ちまししょう。

イ 生菌数を増やさないう、ミルクインレット(パイプライン入り口)を清潔に保ち、ミルカーシステムやバルククーラーの洗浄・殺菌、バルクの冷却システムに問題がないかチェックしまししょう。

ウ 搾乳機器・バルククーラーは日常的・定期的に点検し、部品交換を行い、異常が確認された場合は速やかに修理しまししょう。

エ 体細胞が高い場合は原因牛をPLテスター等で特定し、早期治療しまししょう。